

(仮称)三軒屋公園等複合施設に係るワークショップ <<第1回>>

(仮称)三軒屋公園等複合施設が市民に永く愛される施設になるよう、利用者である市民の皆さんに参加いただき、「家族や友人とこんな風に過ごしたい、こんなことをしてみたい」等、新しい複合施設や公園で過ごす自分を想像しながら、3つのグループに分かれて話し合っていました。10代から80代まで、幅広い年齢の方々に御参加いただきました。



Aグループ

発表タイトル 「誰もが心地よく過ごせるみんなの居場所づくり」

大切にしたいこと

- ✓こどもから高齢者まで笑顔でつながる空間デザイン
- ✓みんなの「読みたい」をかなえる理想の図書室

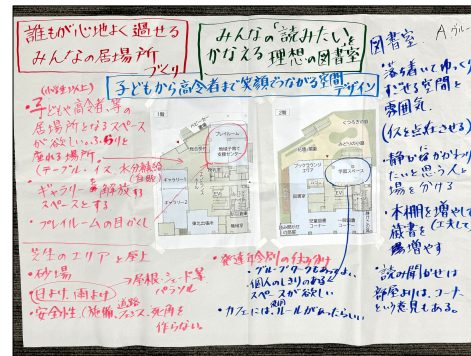
大切にしたいことを実現するための工夫

1階・共用エリア

- ・暑さしのぎや雨宿りなど、目的がなくてもフラッと立ち寄って休憩できるよう、テーブル、椅子、自販機を充実させ、気軽に使える休憩スペースを設ける。
- ・ギャラリーについて予約がない時間はエントランスホールの延長として、市民が自由に使えるようにする。
- ・プレイルームには適度な目隠しを設け、館内全体として「死角をつくらない」安全な設計を徹底するとともに、ルールづくり等により、こども、高齢者、障がいのある方など誰もが過ごしやすい空間をつくる。

2階・図書室・カフェ

- ・落ち着いて過ごせるよう椅子を増やし、静かに読書したい人と、カフェで飲食物を購入した親子などが過ごすエリア等を分けるゾーニングを行い、理想の図書室として整備する。
- ・学習スペースには個人用の仕切り机と、複数人で会話可能なテーブルの両方を設置し、多様なニーズに対応できるようにする。
- ・書棚の工夫等により、できるだけ蔵書数を確保してほしい。読み聞かせの部屋は、気軽に参加しやすいよう「部屋」ではなく「コーナー」がよい。



Bグループ

発表タイトル 「多様な方々が使える便利な空間づくり」

大切にしたいこと

- ✓多世代が使える学習スペース
- ✓地域にひらかれた利用のルール作り

大切にしたいことを実現するための工夫

空間づくり・ルールづくり

- ・2階の学習スペースについて、個人で集中したい人、数人で対話しながら学びたい人、大学生、社会人、不登校の小学生など、多様な立場の人々が活用できる環境を整える。
- ・1階ギャラリー等を活用し、若者が起業を試せるような期間限定のチャレンジショップや、地域の農産物を紹介する地産地消の場として開放する。

使い勝手と安全性の確保

- ・全館でのWi-Fi完備、各階への給水機・コピー機の設置、地下へのロッカー設置、茶道や競技カルタなどで利用できるよう和室（畳スペース）の設置と防音設備の検討など、館内のインフラ・設備を充実させる。
- ・転落事故防止のため、こどもの遊び場は屋上ではなく建物内に配置するなど、こどもの安全確保の工夫を行う。
- ・暑さ対策として木陰をつくる大きな木を配置しつつ、維持管理コストも考慮した植物選びを行う。



Cグループ

発表タイトル 「やすらぎと豊かさを感じる館」

大切にしたいこと

- ✓世代にかかわらずみんながふれ合える空間

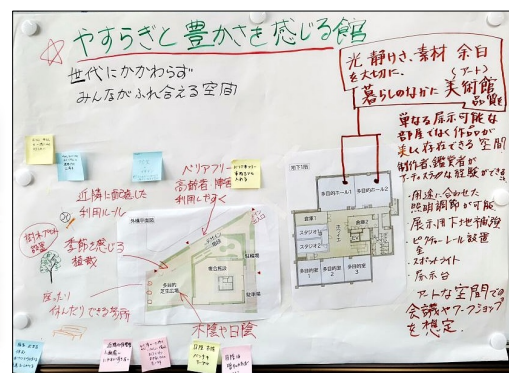
大切にしたいことを実現するための工夫

広場・公園（屋外空間）

- ・木陰で座れる場所、テーブルを増やし、ランチや休憩ができる憩いの場にする事で、みんなが集いやすい環境整備を図る。
- ・既存の樹木を活かしつつ、地域の特色である雑木林をイメージした季節感のある植栽とし、樹木の名称プレートを設置するなど、地域性をいかした植栽計画とする。
- ・バリアフリーを図り、高齢者や障がい者も使いやすい設計にする。
- ・近隣への騒音対策など、住宅地に隣接した施設としての利用ルールを明確にする。

多目的室・多目的ホールの活用

- ・地下について、公共施設にありがちな事務的な会議室ではなく、光、静けさ、素材にこだわった質の高い美術館（アート）品質の空間を目指す。
- ・スポットライト、展示用壁面補強、ピクチャーレール、コンクリートや自然素材の内装を採用し、ハイレベルな文化活動に対応できるプロ仕様の設備とする。



コーディネーター（千葉大学 湯浅かさね 助教）による講評

- ✓どのグループも「立派な施設をつくること」ではなく「市民の居場所をつくること」と変化している点が非常に素晴らしかったです。
- ✓空間の使い方や設えについての提案だけでなく、長く利用していただくためにルールづくりが必要、という意見が複数のグループから出ていたのが印象的でした。
- ✓チャレンジショップなど公共施設の柔軟な使い方の提案がありましたが、他自治体での事例もあり、本施設でも実現可能な内容だと感じました。
- ✓今回のワークショップの特徴として、指定管理者として運営に携わる事業者がファシリテーターとなって参加者の意見を直接聴く機会となっており、意義深く貴重な機会だったと感じました。

千葉大学
 湯浅かさね 助教

～ 参加者(第1回・第2回)の感想 ～

- ・初めての機会でしたが、幅広い年代のさまざまな意見を聞くことができ貴重な経験になりました。このようなワークショップがあればまた参加してみたいと思います。
- ・各世代や立場により、色々な視点があることがわかり新しい発見があり有意義でした。
- ・参加できて良かったです。ワクワクするような施設になると感じました。
- ・今回のワークショップで特に印象に残ったのは、市民の方々の熱量の深さです。
- ・この町を良くしたいという気持ちがとても伝わってきて、良い刺激を受けました。
- ・初めてこのような機会に参加しました。世代ごとに意見が異なり、若い世代がこういった場所にきちんと参加しないと行けないと思いました。

